本郷先生の御退官に寄せて

佐々木泰子

今、先生との思い出を記すにあたり、先生の御略歴を見ると本郷先生は1991年にお茶の水女子大学の専任になられたとある。私が日本言語文化に入学させていただいた年である。しかし、私は日本言語文化の学生時代に先生のご指導を受ける機会に恵まれなかった。私が最初に先生と直接お話（？）する機会を得たのは私の修士論文の口述試験の時、1993年の2月であった。その時の先生のきりりとしていらっしゃりながらもお優しい雰囲気は、その後いつも変わらない私の先生に対する印象となった。

本郷先生はお茶大の専任になられてから４年の間、助手や教務補佐と同じ部屋で過ごされた。私は日本言語文化を修了後、助手として２年間勤めさせていただいたが、その２年間のほとんどを本郷先生と過ごさせていただいた。気さくな本郷先生は決して偉ぶらず、私たちスタッフをとても大切にしてくださった。仕事の合間の先生とのおしゃべりを私たちはいつも楽しみにしていた。４０歳を過ぎて恵まれた掌中の珠のお嬢さんのことや動物好きの先生が飼っていらっしゃる猫のことなどを伺ったりとそんなたわいのない楽しいお話を私たちは心待ちにしていた。

日本語教師としての本郷先生に直接接することのなかった私は、ハーバード時代の輝かしいお仕事ぶりを私の恩師である浅井清先生や、私の友人の稲垣みはるさん、またハーバードで先生の作られたテキストを使われたという南山大学の坂本正先生のお話を通して知った。またお茶大の留学生を通して本郷先生がどんなに楽しい授業をなさるか、そしてどんなに親身に留学生の面倒をみてくださるかを知った。

私は今、人間としても教師としてもどれほど尊敬しても余りある本郷先生の後任という立場になって身も細る思いであるが、同じ部屋で過ごした２年間やその後の先生とのおつき合いを通して教えていただいたことを思い出しながら頑張っていきたいと思っている。

本郷先生、どうぞいつまでもお元気で未熟な私たちをご指導ください。そしてますますご活躍くださいますように。